

2025 年(令和 7 年)11 月 21 日(土曜日)

大 館 市「地域の宝」守るために 景観シンポ 先進地の事例や思い紹介 初 開 催

大館市景観シンポジウムは、20日、秋田職業能力開発短期大学校で開かれた。市は良好な景観の保全・形成などの方針を示す「景観計画」を策定し、来年4月に施行することにしており、市民に周知する狙いで初めて開催。講演やパネルディスカッションを通じて、先進地の取り組みや景観まちづくりへの思いに理解を深め、地域一体となった活動に向けて参考にした。

同短大の学生や一般市民、市職員ら約50人が聴講。石田健佑市長は「大館だなあ」という景観があり、記憶に残っているから愛着心が湧く。青春の記憶が将来の移住・定住にも結びつく。大事なのは景観という基盤があるかどうか」とあいさつした。

市都市計画課の担当者が計画概要を発表。「景観重要建造物」「景観重要樹木」の指定、全ての建築行為に設定した「景観配慮事項」、一定規模以上の建築物・工作物の建設、開発行為に対する「景観形成基準」などを説明した。

青森県黒石市商工観光部の太田淳也部長は、伝統的建造物と木造アーケードが連なる「中町こみせ通り」を生かした市街地再生、行政・民間による空き物件のリノベーション、環境整備事業を紹介。地域の魅力を発見・共有することで「景観について考える人」が増え、収入につながる仕組みができた。こみせ通りを歩く人が増え、空き家・空き店舗への関心も高まっている」と利点を挙げた。

いわてNPO・NETサポート(岩手県北上市)の菊池広人事務局長は景観学習への思いを語った。東京都国立市・富士見通り周辺で建設中だったマンションの解体を例に挙げ、景観は宝。ルールを作ることを守る」と計画の必要性を指摘。「一人一人の心の原風景を大切にしていくながら、景観まちづくりの先進地事例発表などがあつたシンポジウム(秋田職業能力開発短期大学校)



景観まちづくり」と述べた。パネルディスカッションは「未来へ繋つなぐ景観まちづくり」をテーマに実施。登壇した大館・北秋田建築士会の松橋雅子会長は「何気ない風景への意識があれば、目が育っていく。守らなければ原風景は消えてしまう」という言葉に共感した」と話した。